

ECAN ヨリヨリ ニュースレター

NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki (ECAN)

<http://www.npo-ecan.org/>

リレーインタビュー 【Special Edition】

NPO 法人環境市民 長崎市
杵本 育生 代表 × **田上 富久** 市長

f Facebook 始めました！
→詳しくは8ページへ



今、私たちにできること。

ECAN 活動報告 環境マイスター研修／基金訓練 太陽光発電システム科

チングば **ウォッチング！**

⊕ 長崎ソカイネットワーク

会員紹介 **川里 弘孝** さん



いい人、いい自然、いい長崎

環境カウンセリング協会長崎は美しい長崎の創造に貢献したいと願っています

FREE!!
vol.



イーキャンリレータビュ Special Edition

長崎市

田上 富久 市長

NPO法人環境市民
すずもと
枚本 育生 代表

平成 23 年 8 月 17 日、長崎市役所で「日本の環境首都コンテスト 2010」の表彰式が行われた。このコンテストは日本で持続可能な社会を地域から創り出そうと 2001 年から 10 年間にわたり毎年開催され、全国の市区町村が参加して、先進事例も数々選出されてきた。最終回の 2010 年は熊本県水俣市が「日本の環境首都」の称号を得た。長崎市は同コンテストにこれまで 8 回参加し、2010 年は総合順位で 58 参加自治体中 23 位となり、先進事例「市民力・職員力による総合計画づくり」は特別表彰事例に輝いた。またこれまで先進事例を 15 事例輩出しており、「魅力ある環境の街づくり」特別表彰も同時に受賞した。

コンテスト結果の振り返り

長崎市の総合順位は、この 2 年間で順位・得点ともに上昇。しかし市民参画部門はここ数年上昇してきたが昨年と比べては伸びが見られない。また全国と比べると環境マネジメントシステム、自治体交流、環境学習、ごみ減量化の分野で点数が低く、これらの部門について更なる取組みが求められる。

（田上市長） 自治体交流とは環境に関する自治体交流ですか？

（枚本氏） そうですね、環境を広く捉え、それをテーマとした自治体交流で、一つは相互訪問をやっているかということ。そして、それをベースとして長崎市と別の市で一緒にやって一つのプロジェクトをしているかどうかということですよ。

（田上市長） 環境学習は実施回数が問題ですか？

（枚本氏） 単発の環境学習はどの自治体でもたくさんやっていますので、ここではあまり得点になりません。継続的な取組みで、そのリーダーや新しい活動を生み出すものを評価しています。このコンテストでは 10 回かけて質問を高度化していきました。同じ政策をしていると点数が下がっていくという仕組みです。

ごみ減量化も同じです。リサイクルは当然皆さんがやっていますので、たくさん分別したからといって点数にはなりません。むしろリデュース、リユースをどれだけやっているのかということですよ。

（田上市長） 環境マネジメントシステムもよくありませんでした。

（枚本氏） マネジメントシステムはやっていて当たり前なところがありますが、その反面、もうやったから終わりという自治体が増えてきました。我々としてはせっかく行ってきたマネジ

メントシステムを中小事業者等へ広げているかどうか、と同時にこのマネジメントシステムでどのように市の事業が改善されたのかという部分に評価を移していきました。厳しく言うと PDCA をきっちりやっているかが見たいところです。

（田上市長） そこは一番大事なところですね。気になるのは、市民参画部門です。ここ数年、環境部が力を入れてきたことなので、その順位が落ちていることがショックです。

（枚本氏） 昨年度と同じ自治体数ですが、参加された自治体が 10 以上入れ替わっています。その中の相対的評価ですので、絶対的な点数では落ちていないと思います。ただ、市民参画については環境部以外の部署にも質問していますので、あらゆる部門の計画策定から実施、評価において市民参画をやっているかということになります。環境部だけでやっているても伸びきれないと思います。

毎年質問を難しくしている中で長崎市の点数は伸び続けているので、全体としては成長しておられると思います。

（田上市長） 全国という広い範囲で見ると、長崎市は点数が低い部門がありますが、いつもこういう形で励ましていただいて非常に感謝しています。皆さんから励まされ、アドバイスをいただきながら育ててもらっているところがあります。今回は長崎市として質問項目を細かく見直した中でのこの状況ですので、しっかりと次につながるように、それがまさに PDCA でもあると思います。特に点数が低かったところを考えないといけませんね。

コンテスト結果の活用について

（枚本氏） 長崎市はコンテストに 8 回参加いただいているので、我々の方でも色々なデータを持っています。長崎市と全国の政策状況を比較して、それをもっと丁寧に長崎市の職員や住民の方に研修会や講演会などで伝えて

利用してもらってはどうかでしょうか。データをいっぱい持つていても伝えない限りは、僕らが分析する以外に何の意味もなくなってしまう。

（田上市長） そうですね、今回の結果は活用してこそ価値が出てくるものです。人口規模別順位で見ても 5 都市中 5 位という状況です。どこがどんなふうに弱いのかということ、どういうやり方がよいかわかりませんけども伝えていければいいですね。「広報ながさき」などでもいいですね。



（枚本氏） 長崎市の分析を中心にしながら、他の自治体の優れた事例を知ってもらえたら刺激を受けてもらえます。今、上位にいる自治体の中にはこのような研修をやった自治体が多くあります。我々から皆さんにお返しできるものは情報しかありませんので、活用していただければと思います。

（田上市長） うちの市役所からはあまり先進都市に行くようなことがありませんが、いい取組みを自分の目で見えて話をして、聞いてこないことには分からないことがあります。本などはいいことしか書いていませんし、苦勞されていることや上手くいっていないことがヒントになったりもしますから、もっと積極的に視察しないといけませんね。

（枚本氏） 我々も、この 10 年間のコンテストで先進事例を 68 出しましたので、ベストプラクティスを作り、インターネットで公開して各自治体に活用してもらおうかと考えています。ただ、本当は直接お伝えするのが一番いいと思います。

（田上市長） ぜひ長崎市に合うものを見つけてやってみたいですね。

「環境先進都市ネットワーク（仮称）」づくり

（枚本氏） 九州・山口地区で「環境先進都市ネット

ワーク（仮称）」を作っていただけなのかと思つています。中部地区では安城市、飯田市、掛川市、新城市、多治見市の 5 つの自治体でネットワークを作っており、市長のサミットとともに、課長レベルの方にも年数回集まっていた。具体的な政策を考えて研究してやることをやろうと動いています。ここでは人材流動化の具体化もしています。飯田市の市長から「一つの自治体で専門性のある職員を養成するのは難しいから人材の交流をやっていた方がいい」という提案があり、それを具体化しようとする市の環境担当課長と人事担当課長で検討しました。実際、この秋から実施してみようというのかどうか検証し、後々は全国的に自治体の人材交流をやっているという話です。それ以外にも 5 市で今年の夏の省エネ目標を定めたり、震災時に相互サポートする仕組みを作ったり、環境を考えた商品開発とそれを他の地域へうまくアピールする仕組みを作ろうとしています。先日行った市長サミットでは「地域の主体性を大切にしたい、再生可能エネルギーの飛躍的拡大」について国へ政策提言しようとした。こういうネットワークを九州・山口地区で作れないものかと思っています。

（田上市長） 九州・山口というと・・・

（枚本氏） まず水俣市ですね。それから宇部市、天草市、熊本市、南島原市を候補と考えています。まずは 3 ～ 5 自治体くらいで始めてはどうかと考えています。



中部地区が共同で行おうとしている研修は、「エネルギー」や「環境と経済」です。共同で行うことで経費を削減しながら内容を充実で

き、刺激を受け合うことができます。

（田上市長） 環境と産業は大事で可能性のある分野ですね。例えば下水処理で汚泥を少なくするシステムが既に実証実験に入っています。そういうものが長崎の企業から生み出されているわけですね。小さな企業でもいくつかいい製品を持っていますので、それを見出し、いけるような町の方向性を作っていきたいと思っています。ただ、そういう分野は産業としてやっているところがあり、環境とどう統合していくのが長崎市にとつてます大事なことになってくると思います。それは放射能を生み出さない再生可能エネルギーにもつながっていくと思います。

（枚本氏） 再生可能エネルギーに関して言えば、日本は小国ではなく大國かもしれないと我々は分析しています。石油とウランについては日本がエネルギー小国なのは当たり前ですが、お分かりのように南も太陽も日本は豊富で、地熱国家でもあります。海に面していますので、海流も利用できます。それから植物の成長力がヨーロッパの数倍と言われている。言い換えればバイオマスの方が数倍ということ、そういう意味では日本はそれを利用すればすごい地域産業、地域エネルギーを生み出すことができます。もともと技術のある国ですが、そこに焦点を合わせていなかったために現在のようになってしまった。市長の言われるように放射能汚染のない国を作ることが大事な視点だと思っています。ドイツなどの脱原発は経済政策でやっています。環境と経済を合わせながら地域雇用を生んで、それから地域の中でエネルギーを作りエネルギーの安全保障をしようという考え方ですので、その辺については日本はまだ遅れている部分があります。国が動かない場合、地方から動かないとダメだと思います。宇部市では ISO の研究会を市役所と企業で作って、既に製品開発をやっていますので、そういう部分を一緒にすると環境と経済は決して離れてお

らず、むしろ今後はともに進めていくべきだということを理解しやすいと思います。水俣市長は、このネットワークに「もちろん賛成ですよ。やりましょう」とおっしゃっていた。田上市長にも言っていたんだけど弾みがつくのですが。

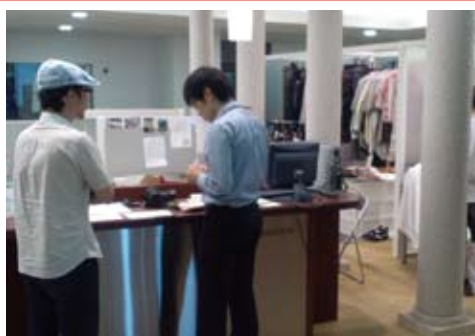
（田上市長） そういう方向に行かなければいけないことは間違いないですね。いずれにしても環境と産業というテーマは非常に大事なもので、今年の状況を踏まえながら、これから取り組んでいかないといけない部分ではあります。どんな形なのかということについては話を始めたばかりなので、今後どんな形で動きを作り広めていくのか、情報交換させていただければと思います。

（枚本氏） 地域を本当に活かして地域を大切にするにはどうしたらいいのか、そこから議論をして、「環境と経済」のような本当に必要なテーマを掲げていくといいですね。こういうところはうまくいけば協力しやすい部分だと思ひます。

（田上市長） 色々な分野で協力、貢献できるというのはいつの目標でもあります。環境面でも何らかの貢献ができるような市になっていきたいと思っています。



表彰を行ったのはコンテストを主催する「環境首都コンテスト全国ネットワーク」の主幹事団体である NPO 法人環境市民代表の枚本育生氏、それから構成団体である環境ネットワークながさき塾代表で我らイーキャンの理事長でもある宮原和明の 2 名。



物資受付窓口の元船倉庫



集められた家電製品



疎開してこられた方へ物資を運搬

長崎ソカイネットワークは、東日本大震災とこれに続く原発事故により長崎市周辺に一時避難（疎開）ソカイして来られた方々を長崎市民の手で支えていくとする団体です。

震災直後に膨大な数の避難民が発生しましたが、今回の震災では避難生活が長期化することが見通されたため、被災地周辺だけで受け入れるのは無理があり、早晚長崎でも対応することになると考えたのが始まりです。

自然災害は局所的に起きるので、国民（市民）全体で支えるよう行政が中心となる側面もありますが、こと避難民の支援は、「人」を受け入れるという性格からみても市民の役割が大きいと思います。また、被災地に行ってボランティア活動をする時間的・経済的余裕がない市民も、小さな支援を出し合うことで支えることが可能な取組でもあります。

このため、長崎ソカイネットワークでは「市民有志で支援する」ことを基



長崎ソカイネットワーク

東日本大震災を長崎で支える市民のネットワーク



→ ぼくぼく新報

本とし、税金として市民から集めたお金で造った施設（公営住宅など）の提供など、行政に委ねることが適当な分野は行政にお願いするという姿勢で活動しています。

具体的な活動として、当初は「出迎え・相談・街案内」を主とし「支援物資の提供」を次の課題と想定していました。しかし実際には、家財道具がほとんど無い状態で疎開してこられるため、洗濯機・冷蔵庫や食器その他の物資を市民から募り、これを提供する活動を主軸となりました。倉庫に集めた物資を疎開してこられた方々ご自身に選んで貰い、運送業者や工務店、電気屋さんなどの支援の下、市民ボランティアも加わって届ける形です。個別の要望に応じて、PTAに働きかけてお子さんの学校の体操服を卒業生からもらい受けるなどきめ細かい対応も行っていました。

疎開してこられた方々は、故郷と遠く離れているばかりか、集団で暮らしているわけではないため、疎外感を感じるかもしれません。このため、5月から支援情報・長崎で活躍する東北3県出身者インタビューなどを載せた『ぼくぼく新報』という新聞を作り、ご自宅にお届けしています。7月からは東北のブロック紙『河北新報』の購読と閲覧を始めました。直近では「ファミリア交流会」や、長崎夜市の特別企画「東北ストリート」出店などを行い、「つながり」を実感できる取組に軸足を移しつつある段階だと考えています。



疎開してこられた家族との交流



疎開されてきた方が生活物資を見ている様子



長崎ソカイネットワーク 連絡先

〒850-0022 長崎市馬町 21-1 長崎市市民活動センター「ランタナ」

☎ 095-821-3300 ✉ info@nagasaki-sokai.net

URL: <http://nagasaki-sokai.web.fc2.com/>

ブログ: http://blogs.yahoo.co.jp/nagasaki_sokai/

携帯 URL: <http://www.nagasaki-sokai.net/>

ツイッター: <http://twitter.com/nagasaki-sokai/>

環境マイスター研修

こんにちは。「環境マイスター研修」担当、NPO事務局長の松島です。今回は、この8月で第2回目を迎えた環境マイスター研修について紹介させていただきます。

環境マイスター研修とは

はじめに、「環境マイスター」とは何ぞや？ということなのですが、端的に言う「消費者が物品を購入・買いえをする際に、地球温暖化防止、省エネルギー、グリーンコンピューターなどの環境に関する適切な知識を提供すること、消費者の自己判断に基づき、より環境負荷の少ない製品の購入を推奨する販売員のこと。省エネルギーの推進とグリーンな商品市場の拡大に貢献、また消費者への環境問題への意識啓発の一助を担うことが期待される。」というものです。環境マイスター研修制度は、そんな環境マイスターさんたちを誕生させるための制度です。

この制度は、平成17年に内閣府の「先駆的省資源・省エネルギー実践活動の推進事業」の採択を得た全国初の取り組みとして、NPO法人環境市民（京都）と日本自動車販売協会連合会山形県支部を中心とした協働事業として始まりました。現在では、全国で自動車販売分野、家電分野、ガラス・サッシ分野から数多くの環境マイスターが誕生しています。自動車販売・家電分野においては、山形県・和歌山県を始め、東京都・神奈川県・大分県、そして長崎県がこの制度に取り組んでおり、ガラス・サッシ分野では全国北海道から九州までの6ブロックで実施され、これまでおよそ1815人の環境マイスターが誕生・活躍しています。

この制度の意義

（自動車販売分野において）

- ①エコカーの普及促進につながる可能性が大きい
- ②エコカーに対する知識だけでなく、環境問題に関する正しい知識を提供することで顧客の信頼増加を期待できる
- ③CSR（企業の社会的責任）を果たすことで社会的評価が期待できる



1



3



2



4

- 1：NPO 法人環境市民 松本育生氏
2：NPO 法人環境市民 下村委津子氏
3：熱心な参加者の皆さん 4：宮原和明理事長

環境マイスター研修のプログラム例

- ①「地球温暖化の現状、影響予測とメカニズム、京都議定書」
- ②「顧客との会話に役立つ温暖化と私たちの生活クイズ」
- ③「交通環境対策と低公害車の普及に向けた総合対策」
- ④「長崎県における地球温暖化の現状とその対策」
- ⑤「長崎県内における県民への温暖化普及啓発の現状」
- ⑥「グリーン購入と自動車の環境配慮」
- ⑦「エコドライブについて」
- ⑧「再生可能エネルギー地域協働ですめる温暖化防止」

研修レポート

この研修は2日間かけて行われます。NPO 法人環境市民の代表理事 松本育生氏を中心に、この分野のエキスパートの講師陣が講義を行います。みっちり2日間、朝から夕方まで行われる講義はなかなかタフなもので、受講後には充実感が残るようです。また、講義のみならず、講義最終日に「認定試験」が実施されるのがこの制度の特徴でもあります。全2日間で習得した知識を確認するためのもので、合格点を超えると環境マイスターに認定されます。私もその試験を受けました（もちろん合格！）

さて、この環境マイスター研修（自動車販売分野）の第1回目と2回目の報告です。

第1回目は平成23年3月10日（木）11日（金）に行われました。県内全域から自動車販売に携わる方々が43名参加してくださいました。場所は長崎市立図書館。主催は当NPO、共催として長崎県自動車販売店協会（以下：自販連長崎）、長崎県環境部未来環境推進課そしてNPO 法人環境市民です。朝10時から夕方の5時頃まで、2日間講義にとても真剣に取り組んでくださり、最終日に43名全員が認定証を授与されました。

第2回目は、先日の8月18日（木）19日（金）に、諫早市で行われました。参加者人数は36名。今回は自販連長崎の全面的な協力の元、共催は前回と同じです。朝の10時に開始し、午前の部は温暖化の現状（概論）に始まり、夕方5時までお付き合いいただきました。参加者の皆さんは、2日目の最後に認定試験があることから、一生懸命、長時間の講義に聞き入っていました。認定試験の合格は70点以上。制限時間は30分間の三択問題になっていました。今回は100点が多数でした。無事、全員合格で、皆さん「環境マイスター」に認定されました。認定者の方にはバッジと認定証が贈られました。

バッジを付けて、お店で活躍されることを願っています！



5



7



8



6

- 5：長崎県環境部にインターンシップに来ている学生さんも参加してくれました
6：表彰式の様子 7：集合写真

- 8：授与される認定証とバッジ

基金訓練講座「太陽光発電システム科」

環境カウンセリング協会長崎では、緊急人材育成支援事業による基金訓練講座「太陽光発電システム科」を6月1日に開講し、8月25日までの約3か月間実施してまいりました。受講生は全部で7名。ハローワークに求職申し込みを行っている方が対象で、募集定員の20名には至りませんでしたが、7名ほぼ全員が毎日休まず朝から夕方まで真剣に講座を受けてくださいました。

この「太陽光発電システム科」は職業人として必要な基礎的素養や能力、太陽光発電システム及びその具体的な設置に関する知識、さらにはコンサルティング力を習得し、太陽光発電の営業・販売・事務に携われる人材を養成しようと、イーキャン内外から多彩な顔ぶれの講師陣（15名）が集結しました。

8月25日の最終日は、受講生と今まで携わってこられた講師の方とで昼食会を開き、これまでの3か月間を振り返りながら楽しく時を過ごし、閉講式では、受講生全員に修了証を手渡し、それぞれに一言ずつコメントをいただいで終了となりました。

今後、7名の受講生の皆さんが希望の職種に就き、活躍されることを願っています。

① ソーラーパネル設置作業体験



② メガソーラー模型づくり



③ 座学の様子



④ 閉講式：修了証の授与



⑤ ハウステンボス・技術センターの太陽光発電システム見学（受講生：中央7名）

（個人会員）

川里 弘孝 さん



長崎自然共生フォーラム 事務局長

もともと公園技術者だったので、定年後、環境省関係団体の（財）自然公園財団に拾われ、5年間、徹底的に雲仙温泉でゴミ拾いをやりました。県を退職する直前、上司であった上杉哲郎自然保護課長（当時・現環境省国立公園課長）が「長崎自然共生フォーラム」を立ち上げられ、以来、事務局長に居座り12年がたちました。

会員の発足時の経緯から、造園業者が大半を占めますが、宮原和明会長の肝いりで最近では市民レベルでの実践活動に傾斜しています。毎年、会員減少（予算減少）が悩みの種です。会運営への方向転換を迫られているのだと考えています。



県の「緑と生き物賑わい事業」での「とりかぶと自然学校」生のボランティア

ろうということです。「ゴミ拾い」から始まり「外来生物の駆除」に至り、「健全な生態系は美しい風景を生む」ことへの理論と実践を指しています。その時その時で、生き方を判断せざるを得ない人々をどう自分らの意識に引き込むか、それが問題なのです。

幅広く問題が混在し、下手すると今様の浅知恵で次代へ引き継ぐ環境を壊していないか、腰が引けているのですが「継続こそ力なり」と「一歩前へ」と進んでいます。奇しくも母校山岳部の部員番号が「53」（ゴミ）番だったことは、ゴミとの縁が切れない宿命を感じています。

イベントレポート

環境カウンセリング協会長崎／
エコアクション 21 地域事務局ながさきの活動報告

1 6月環境月間街頭キャンペーン (2011/6/4 sat)

毎年 6 月の環境月間に浜町ベルナード観光通りで開催される街頭キャンペーン (長崎県・長崎市主催)。今年も ECAN ではブース出展を行いました。ECAN の活動報告パネルの展示と三次元環境紙芝居「ばってんキャンドルナイトのよる」を上演し、こどもたちへ温暖化防止への理解と省エネの大切さを PR しました。三次元紙芝居の上演は市内の大学生に協力してもらい、ECAN の理事や会員、事務局スタッフでアドリブを交えながら楽しく行いました。ご協力いただいた方、ブースへお越しいただいた皆様、ありがとうございました。



環境紙芝居の様子



今回の紙芝居スタッフ

2 平成 23 年度通常総会 (2011/6/25 sat)

長崎市民会館にて平成 23 年度の ECAN 通常総会を開催しました。会員総数 119 名のうち委任状提出者 46 名、出席者 29 名でした。22 年度の活動報告、収支決算報告、23 年度の活動方針、収支予算を審議し全て承認されました (23 年年度収支予算は、総会前々日に認可がおりた基金訓練「NPO 等起業育成科」の予算を追加して盛り込むという条件付きで承認)。総会後は懇親会で会員同士の親睦を深めました。



会場の様子



早瀬講師

3 第 1 回 ECAN 定例会 (2011/7/11 mon)

7 月 11 日 (月)、会員向けに意見交換・学び合いの場として第 1 回定例会を開催しました。会場は今年 6 月に改装したばかりの環境カウンセリング協会長崎内の会議室で、15 名の会員さんに参加いただきました。早瀬副理事長が講師を務め、「環境問題と社会」について、飲み物やお菓子をつまみながらアットホームな雰囲気の中で楽しく授業が行われました。今後も定例会を毎月 1 回のペースで開催していく予定です。ぜひ一度ご参加ください。もちろん会員以外の方の方の参加も大歓迎です (参加費: ECAN 会員は無料/一般 500 円)。



講座の様子

Information

ながさきエコライフ・フェスタ 2011

日時: 平成 23 年 10 月 15 日 (土) 10:00 ~ 16:00

場所: 長崎水辺の森公園

主催: ながさきエコライフ実行委員会

(ながさきエコネット、ばってんリサイクル実行委員会、長崎市)

お問い合わせ: 長崎市環境保全課温暖化対策係 TEL: 095-829-1156

ながさき漂着ごみサミット 2011

■ 海岸清掃・ワークショップ

日時: 平成 23 年 10 月 22 日 (土) 10:00 ~ 16:30

場所: 西海市大瀬戸町周辺の海岸・長崎大学総合教育研究棟 3F

* 貸切バス有

■ シンポジウム

日時: 平成 23 年 10 月 23 日 (日) 9:30 ~ 14:30

場所: NCC& スタジオ (長崎市茂里町 3-2)

内容: 基調講演・ワークショップまとめ・各地からの報告・事例発表

参加費無料・要申込み

お問い合わせ: 環境カウンセリング協会長崎 TEL: 095-818-3305

ECAN 定例会

■ 第 3 回講座「技術論から見た環境問題」

日時: 平成 23 年 9 月 12 日 (月) 19:00 ~ 20:30

講師: 糸山景大 (長崎大学名誉教授)

■ 第 4 回講座「循環における合意形成と視点」

日時: 平成 23 年 10 月 3 日 (月) 19:00 ~ 20:30

講師: 川口孝範 (環境カウンセラー/省エネ普及指導員/3R 推進マイスター)

■ 第 5 回講座「エネルギーと暮らし」

日時: 平成 23 年 11 月 14 日 (月) 19:00 ~ 20:30

講師: 時田雄次 (工学博士・環境カウンセリング協会長崎顧問)

場所: 環境カウンセリング協会長崎 (長崎市五島町 3-3-206)

お問い合わせ: 環境カウンセリング協会長崎

TEL: 095-818-3305



NEW FACE!

ECAN 新会員の紹介



石丸 真一 さん

自転車再生委員会 08

昨年度まで自転車でお世話になっていました。今後も環境について一緒にやっていければと思っています。よろしくお願いします。



松本 美恵子 さん

今まで環境のことを深く考えることはなかったのですが、何か私で役立てばと入会しました。よろしくお願いいたします。



Facebook を始めました!

「環境カウンセリング協会長崎 Facebook」で検索または ECAN ホームページからどうぞ。ECAN の最新情報を掲載しています。



9月1日現在、6人が「いいね!」とっています。「いいね!」をクリックして、ECAN の活動を友達に知らせよう。



山川 サエ子 さん

皆様、はじめまして。このたびご縁をいただき入会の運びとなりました。右も左も分からぬままですが、先人の方々のご指導を仰ぎながら協会発展に尽くして参りたいと存じます。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

会員募集中! 環境についてともに考え活動しませんか?

環境カウンセリング協会長崎は、中立な立場から市民、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取組みを支援することを目的に設立されました。

循環型社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を作るために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願い致します。



会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000 円	3,000 円
学生会員	-	1,000 円
企業会員	-	10,000 円
団体会員	-	30,000 円
賛助会員	-	一口 (50,000 円) 以上

現在の会員数 (平成 23 年 9 月現在)

個人会員 76 名、企業会員 29 社、法人会員 3 団体、学生会員 16 名

お申し込み・問い合わせ先
環境カウンセリング協会長崎

TEL (095) 818-3305

E-Mail ecan@npo-ecan.org

— 理事

宮原和明 (長崎総合科学大学名誉教授)、菅洋一 (㈱エコシステム)、早瀬隆司 (長崎大学教授)、武政剛弘 (長崎大学教授)、川口孝範 (㈱T・N・C・エスコ)、石橋康弘 (熊本県立大学教授)、山田知代 (ぽってんキャンドルナイト実行委員会)、空閑次男 (エコアクション 21 地域事務局ながさき)、安永憲一 (長崎県中小企業団体中央会)、新宮一広 (㈱環境衛生科学研究所)、重橋裕明 (長崎三共有機株)、糸山景大 (長崎大学名誉教授)、浅田要一郎、冨工妙子 (ながさきホテルの会)、前田晴郎 (自転車再生委員会)



<編集後記>

今回のヨリヨリはいかがでしたか? 無事、環境マイスター研修が終了し、ほっとしているところです。最近になって、この取り組みが東北や関東、関西などで広がりをを見せています。偶然にも、東北大地震が起きた日は、第1回目の研修会を行った時でした。あの日から、環境に対する人々の意識が確実に変わってきているように感じられます。ECAN (イーキャン) もこの様な状況の中、より多くの人々と関わり、情報交換をし、社会に役立つ組織になっていけたら、と思います。松島加奈 (ECAN)

編集部 宮原和明 早瀬隆司 塩竈綾 松島加奈 監修/山崎加代子 取材/佐藤恵 製作・デザイン/ECAN Makenotosh



本誌のバックナンバーを ECAN ホームページより閲覧できます。↑

ECAN Newsletter ヨリヨリ vol.9(2011 年 9 月)
■発行:NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki(ECAN)
〒850-0036 長崎市五島町 3-3-206
TEL(095)818-3305 FAX(095)826-3693
業務時間: 平日 10:00~17:00 定休日: 土日祝日
http://www.npo-ecan.org/

■印刷 総合印刷 コマツ印刷

Copyright 2010 Environmental Counseling Association of Nagasaki All rights reserved
本誌の無断複写・複製・転載を禁じます

ECAN LOGO MARK
長崎県の形+葉っぱをイメージした緑
右手は「力」を意味する赤。(ガッツポーズ)
左手は美しい水を意味する水色
回りの円は、碧い地球



このニュースレターは再生紙を使用しています